

2024年6月28日

日本歯科衛生学会 会員各位

日本歯科衛生学会 学会長 吉田幸恵

「日本歯科衛生学会雑誌の電子ジャーナル化」について

拝啓 会員のみなさまにおかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

日本歯科衛生学会雑誌は、今日まで紙媒体で提供して参りました。他の専門職職能団体が発行する学会雑誌や歯科関連の学会雑誌が電子ジャーナル化をしている状況の中で、本学会も20巻1号（2025年8月発行予定）から電子ジャーナルプラットフォーム（J-STAGE）および日本歯科衛生士会ホームページでの公開と、紙媒体による学会雑誌の提供の中止を検討しております。主な理由としましては、①電子ジャーナル化により迅速な掲載と場所を選ばずにアクセスできること、②紙媒体の学会雑誌の提供を中止することにより、諸経費を本学会の別の活動に有効に費やすことができること、③会員外の多くの方に本学会の情報を共有してもらいやすくなることが挙げられます。郵送による学会雑誌の提供を中止することは、会員のみなさまに影響が大きいことと存じます。昨今、物価の高騰により学会雑誌の印刷代や郵送費も高騰し続けていることや、2024年9月には日本歯科衛生学会第19回学術大会で第1回専門領域別・研究集会の開催が予定されるなど新たな試みもございます。会員のみなさまの会費を有効に使用させていただくために、将来を見据えたさらに前向きの決断をいたしました。つきましては、会員のみなさまのご理解とご協力を賜りたく存じます。電子ジャーナル化にあたって、これまで以上に会員のみなさまの歯科衛生活動にとって有益となる雑誌の発行をして参ります。

学会雑誌の電子ジャーナル化にあたり、メリット、デメリットを下記のように想定しております。

1. メリット

- ①いつでも Web 上で雑誌をみることができる。
- ②即時に Web 上から論文をダウンロードして確認することができる。
- ③学会運営のコストが圧縮できる。
- ④他職種にも論文へのアクセスをもらいやすくなる。
- ⑤会員外の方に本学会の情報を共有してもらいやすくなる。

2. デメリット

- ①電子媒体に慣れていない方々には不便になる可能性がある。

本学会雑誌の電子ジャーナル化について、日本衛生士会ホームページ上で会員のみなさまからご質問やご意見を拝聴する予定でおります。別途ご案内させていただきます。

何卒ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

敬具